

裝束圖抄

和装本

ワ 3

1478

1



7.3

裝束圖抄

四位五位
束帶衣冠

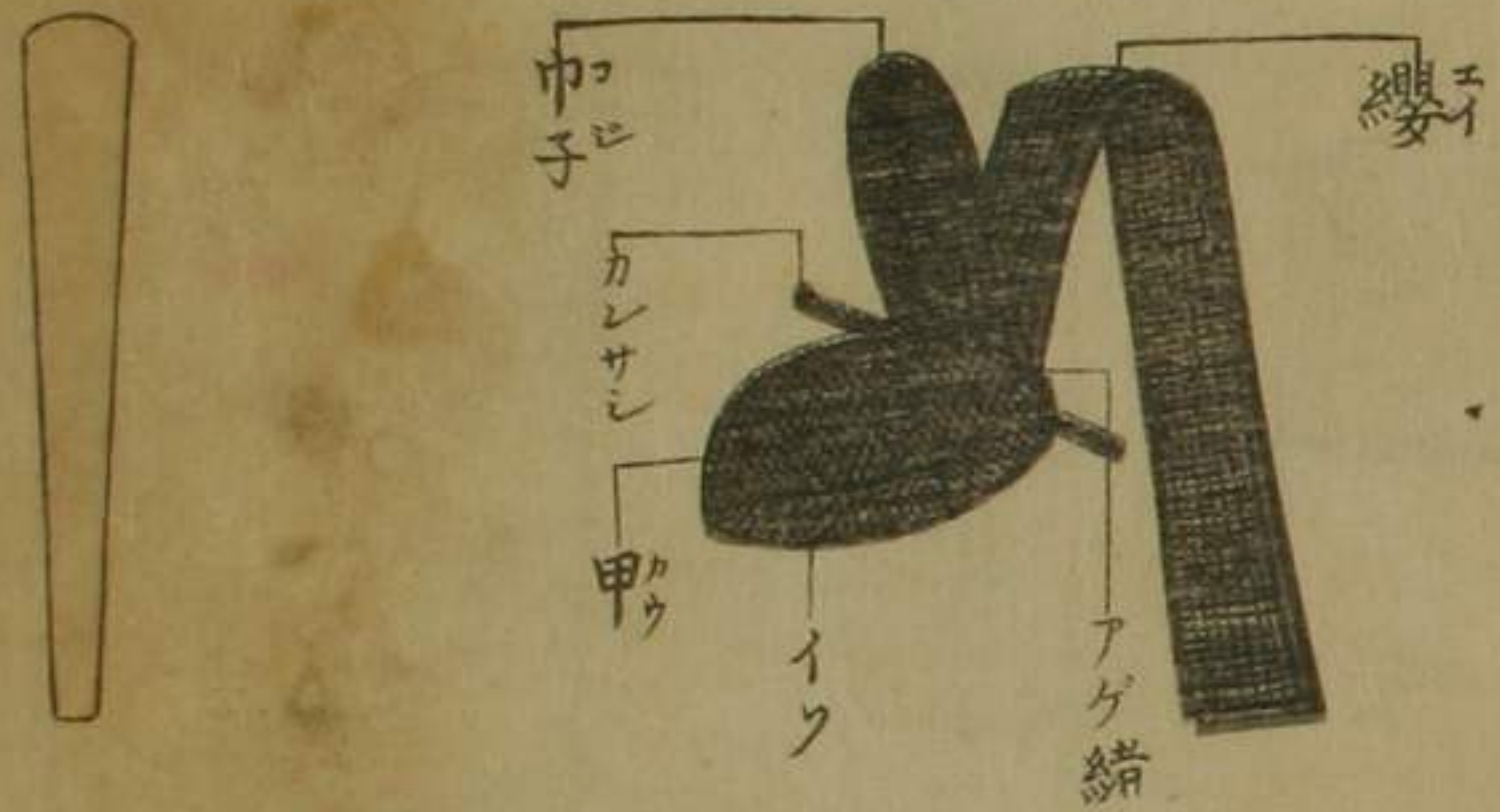
邊
1478
1



装束圖抄

冠

窠



明治四十一年七月一日
執行弘道 氏寄贈

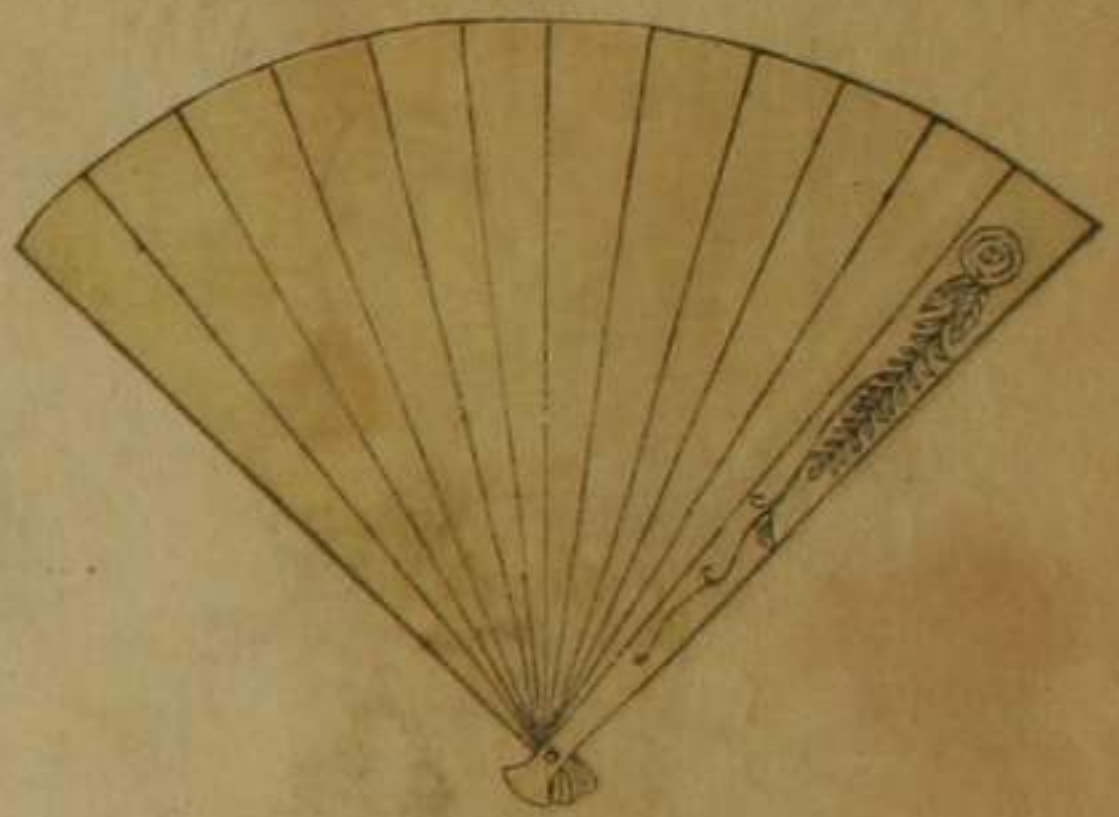


近來厚額薄額の差別なく
皆薄額のなり

掛緒紙捻へ衣冠の付侍従已上
蹴鞠門下の儀月紫の組懸を
用とすも草を重か付ハ紙捻より
紙捻のくも羽子等をくりて用とす
儀へ組懸長サ八尺半リ

櫛 櫻 檜 等ナリ
削 拵 あり

繪扇



復扇



帖紙



家ノ紋を白糸と云く若年の人の
唐草の這も牡丹の如くして唐草
をとりて家紋なりん
繪廿五枚同系白かの目紙捲るを
帖紙と云くなりん

地紙摺繪物等定りる
大橋丁子猫間お成と云
暑天より繪扇の代り持事
略なり

白檀帛或ハ重の色目成り
重の色目ハ泥繪等老若
と云折様家々の習あり

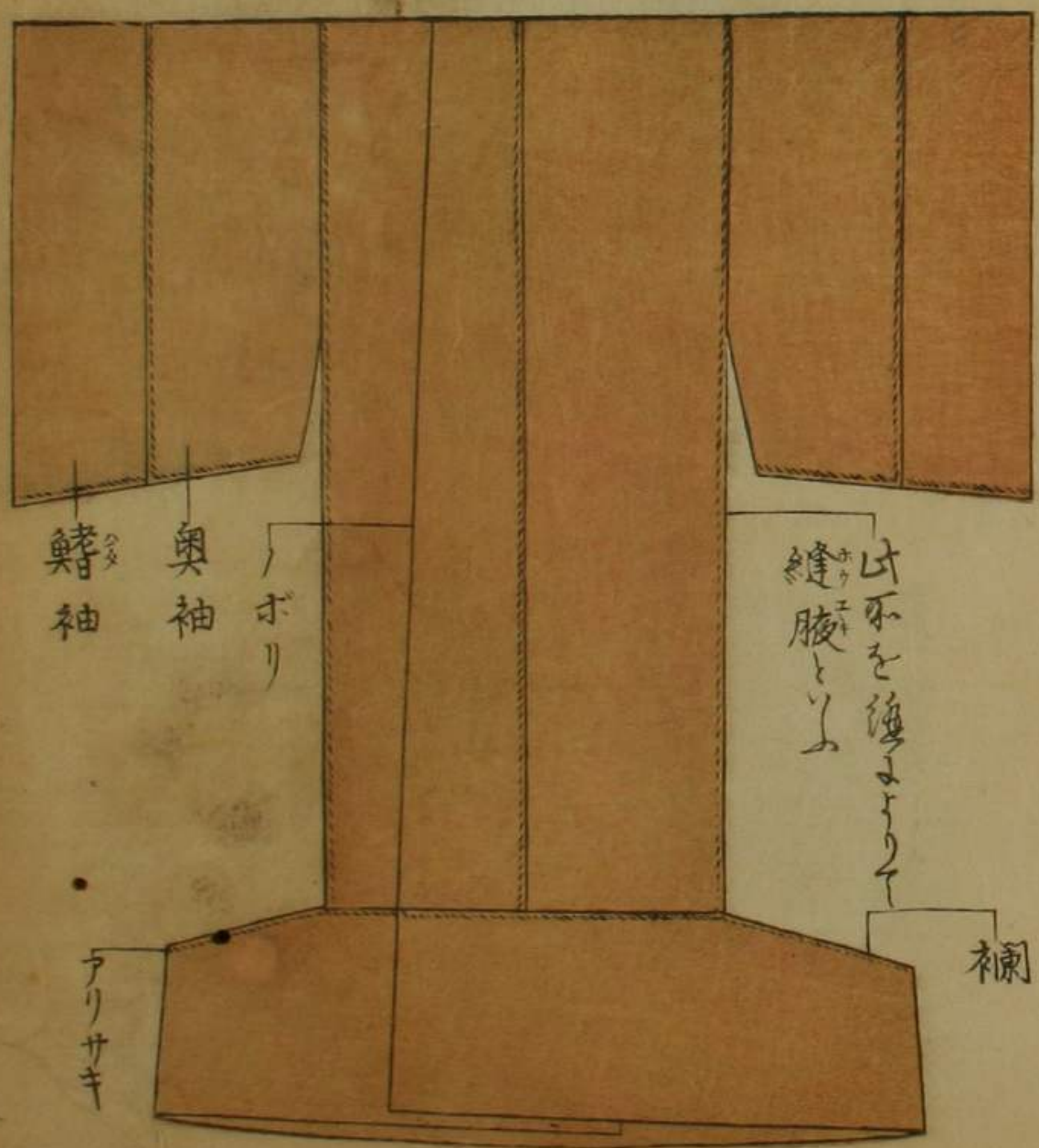
袍ホウ 緋

五位の袍

関東よりハ近來
深紅深を用り
古実成劣ふる
地ハ冬綾裏
色の平緒夏ハ穀
織なり

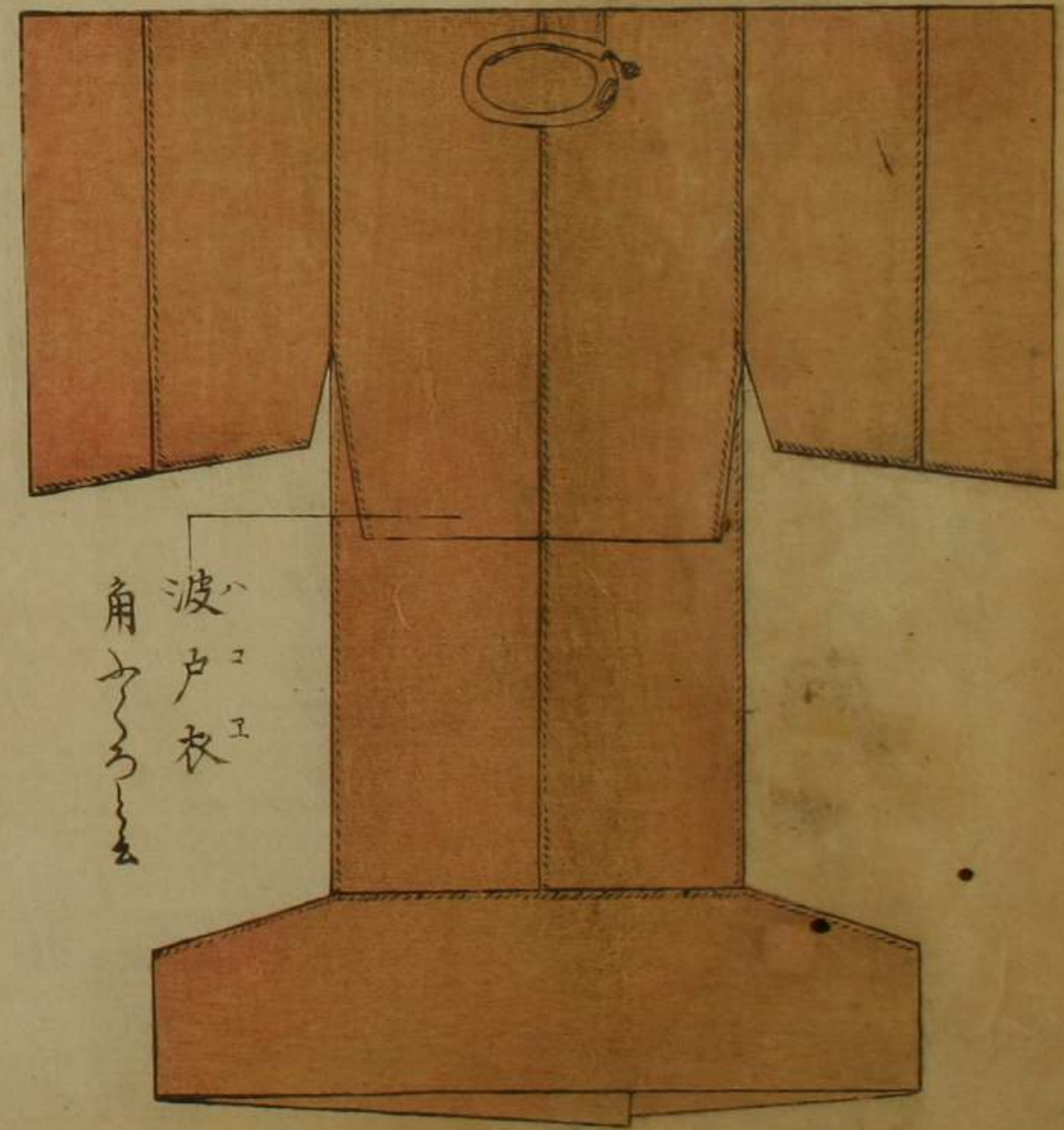
文輪無唐草

家柄より唐草を用ひ
稀のり



同後之図

首カミ
ウケ緒
蜻蛉



四位乃袍^{シカ}椽^{カキ}細^{カキ}倍子^{カキ}將^{カキ}珠^{カキ}珠^{カキ}もも^{カキ}四^{カキ}位^{カキ}以^{カキ}上^{カキ}す^{カキ}は^{カキ}是^{カキ}を^{カキ}裁^{カキ}ら^{カキ}る^{カキ}
 文^{カキ}此^{カキ}二^{カキ}一^{カキ}分^{カキ}之^{カキ} 別^{カキ}の^{カキ}改^{カキ}を^{カキ}裁^{カキ}ら^{カキ}る^{カキ}家^{カキ}ニ^{カキ}裁^{カキ}ら^{カキ}る^{カキ}子^{カキ}細^{カキ}之^{カキ}一^{カキ}

轡唐草

輪無唐草

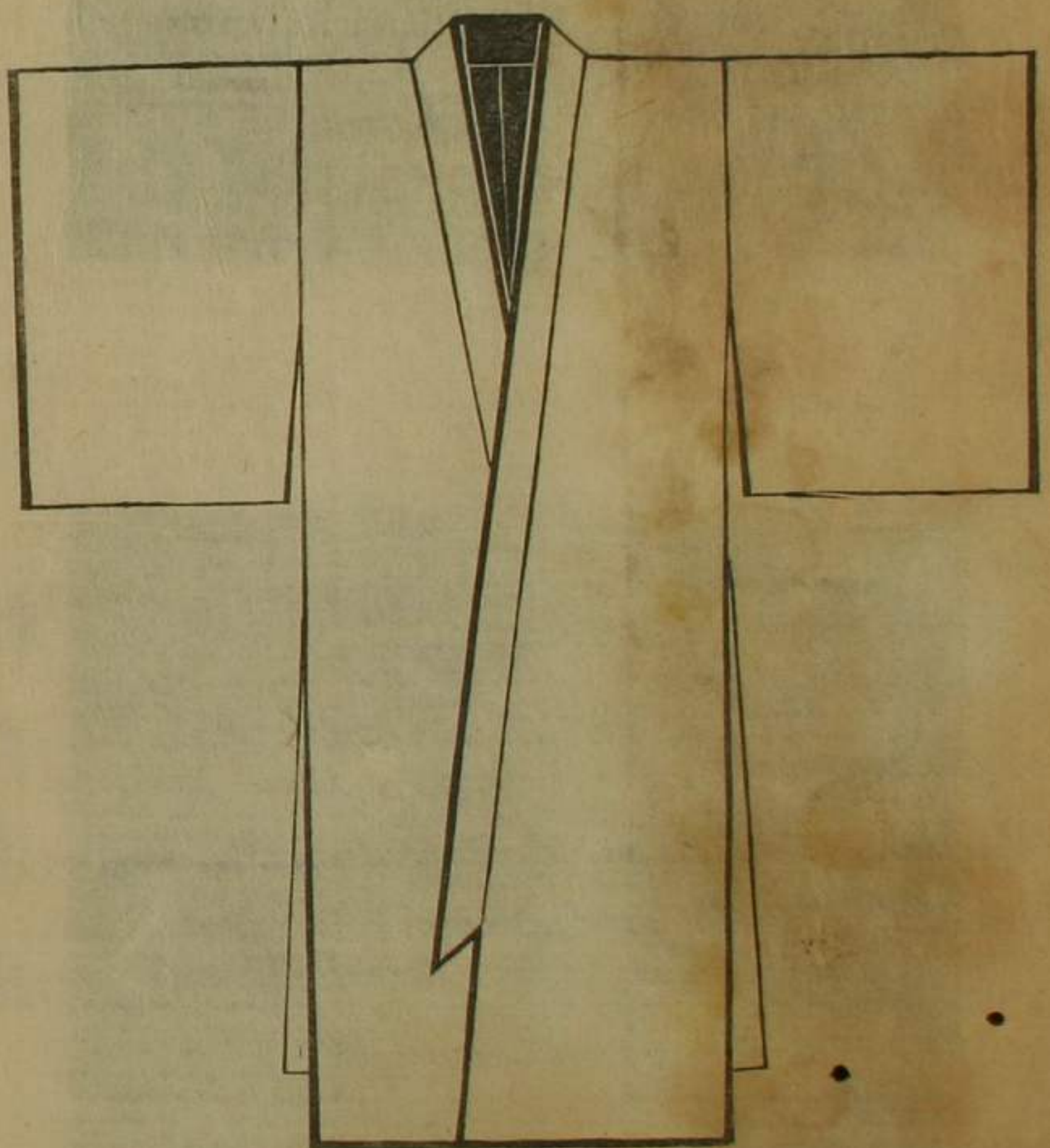


此二ツの文通用する家例をみるに裁きせしむ。

下籠衣

カサ子

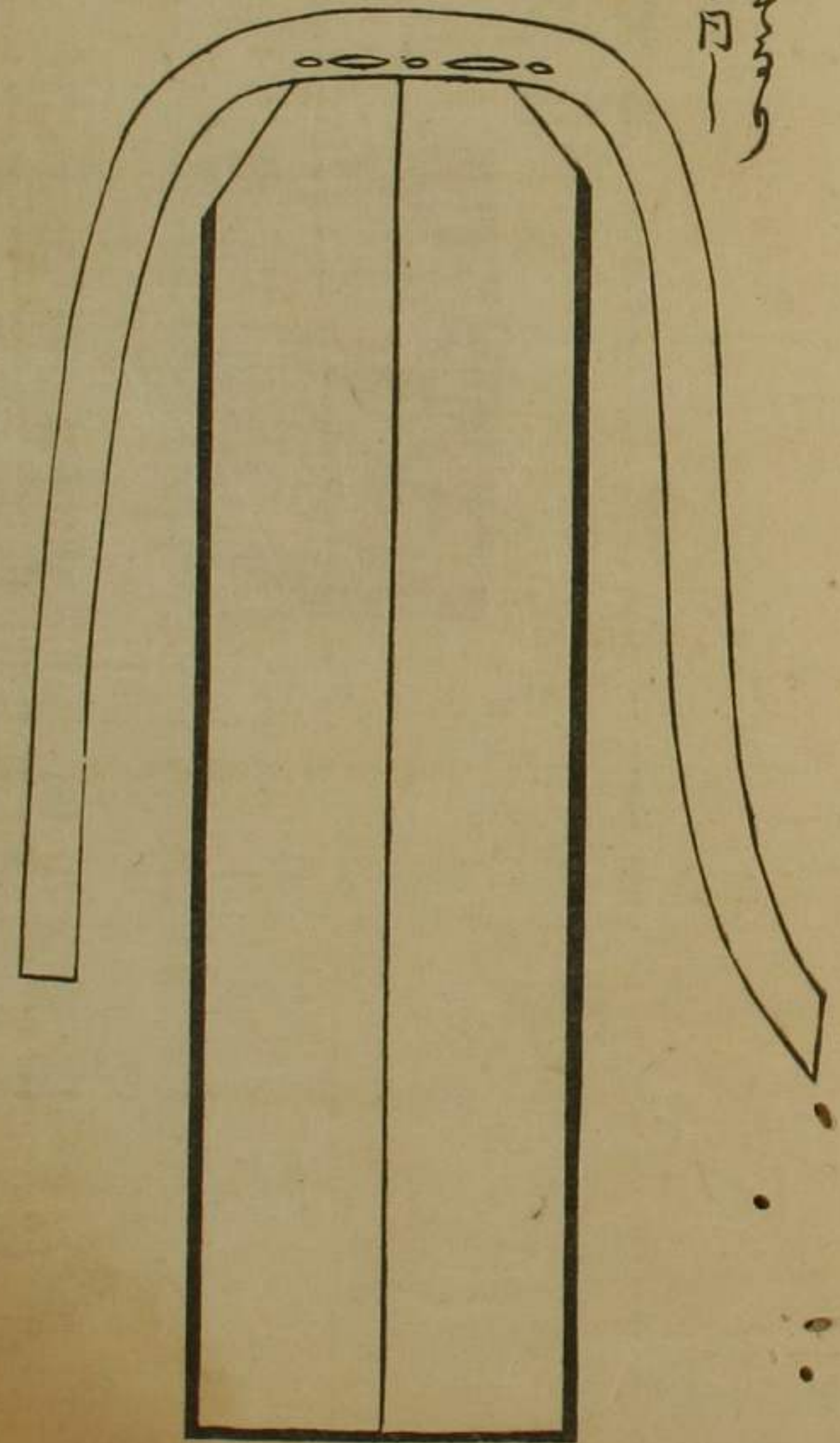
冬ハ表白平緞
裏黒平緞
老年ハ少々さへり
若年ハ板列子細
さへり
階上さへり



裾

下籠のまきさへり
さへり下裾さへり

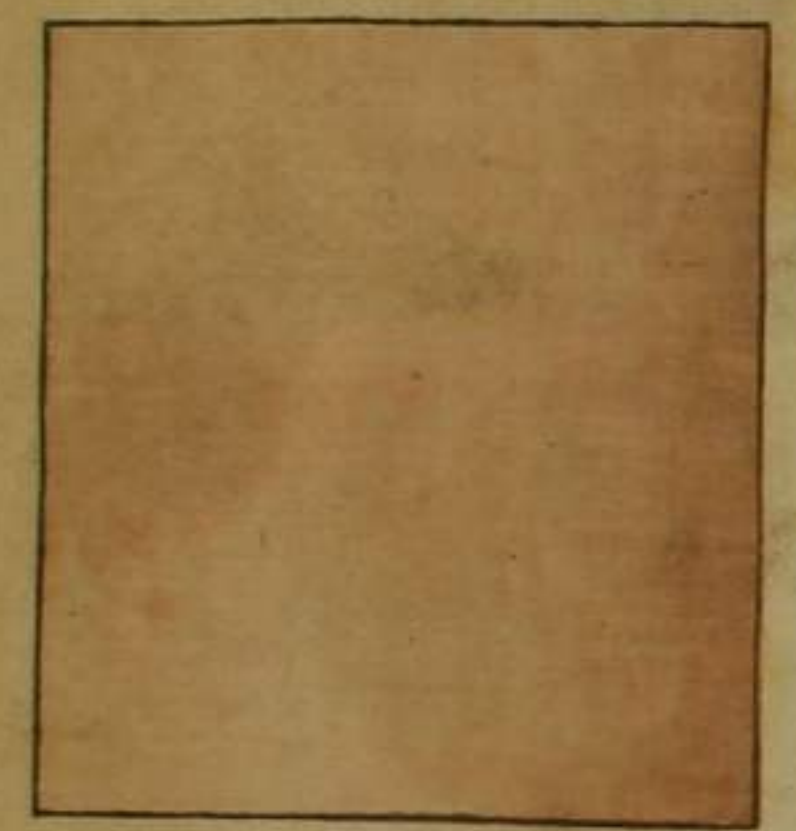
長サの事
五位ハ六尺斗り
四品以上ハ八尺斗り
是今の様さへり
実ハ四五位ハ四尺の
さへり



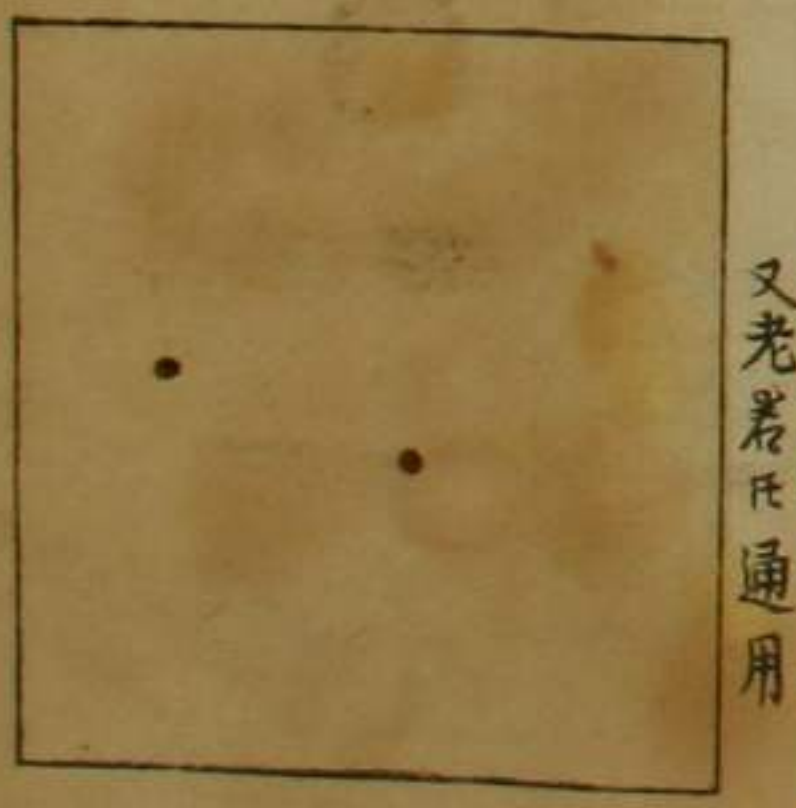
復
若年かゝの如
年長は色分

同
老年
省老は色分
又老年は通用

藍 二



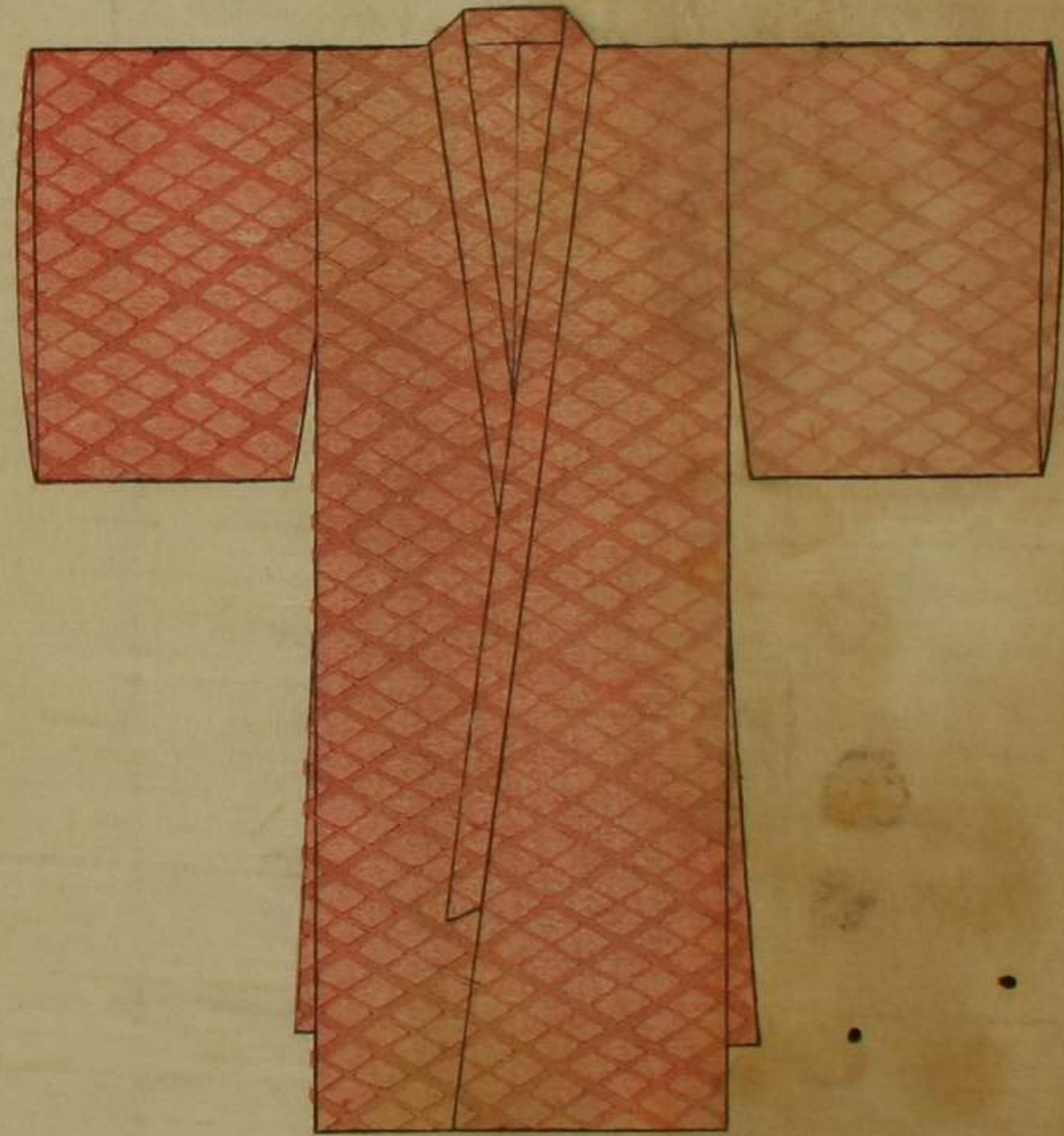
黄 浅



單ヒトエ

地綾色蕨枋

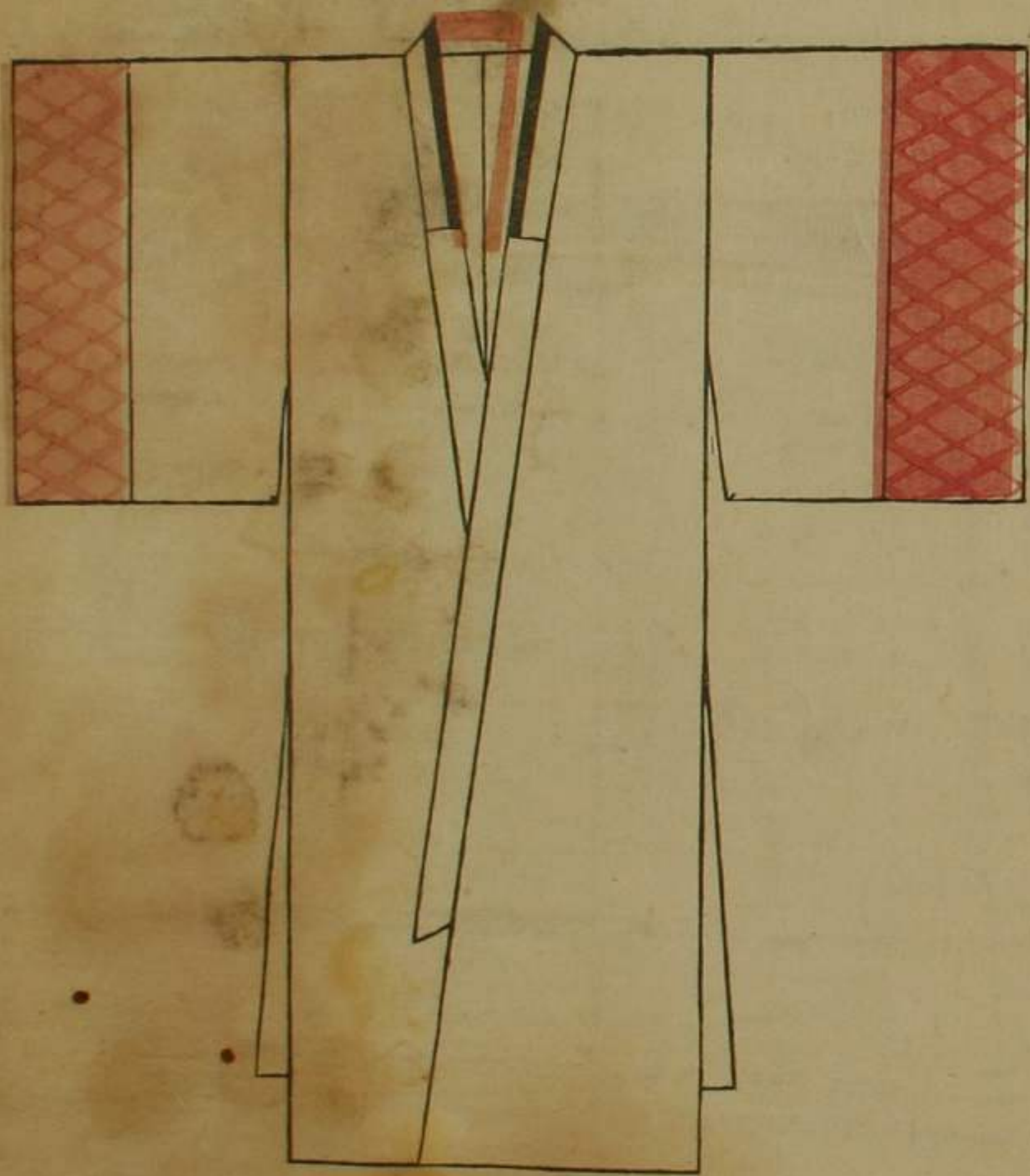
復冬か



下襲單を畧しく大帷子を着る

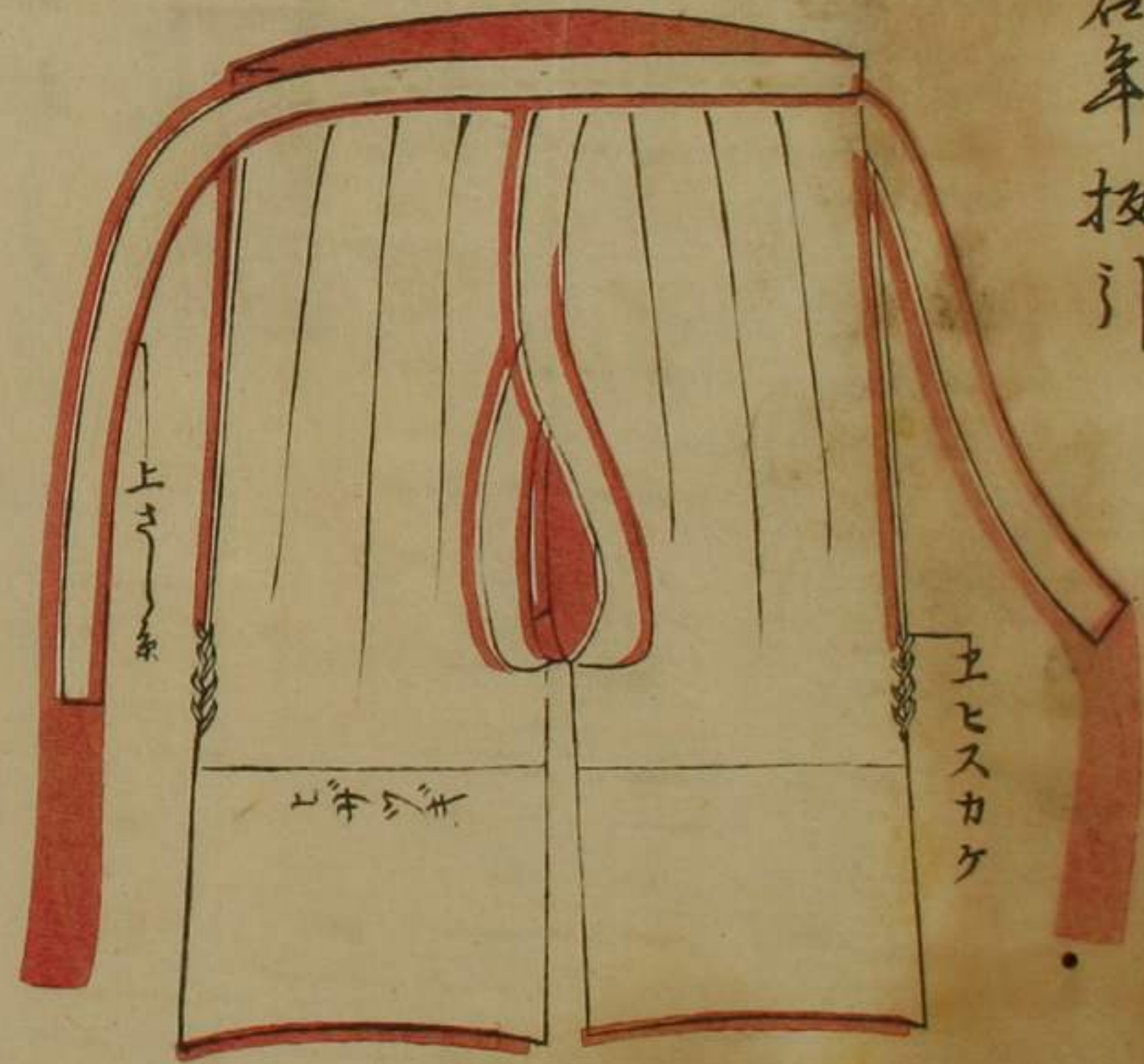
大帷カクシマ

冬ハ白布 夏ハ赤襦カクシマ下襲單の切袖ハ單の切をける



表袴

表白平詣 裏紅平詣 若年扱引
老年ハ少々張之

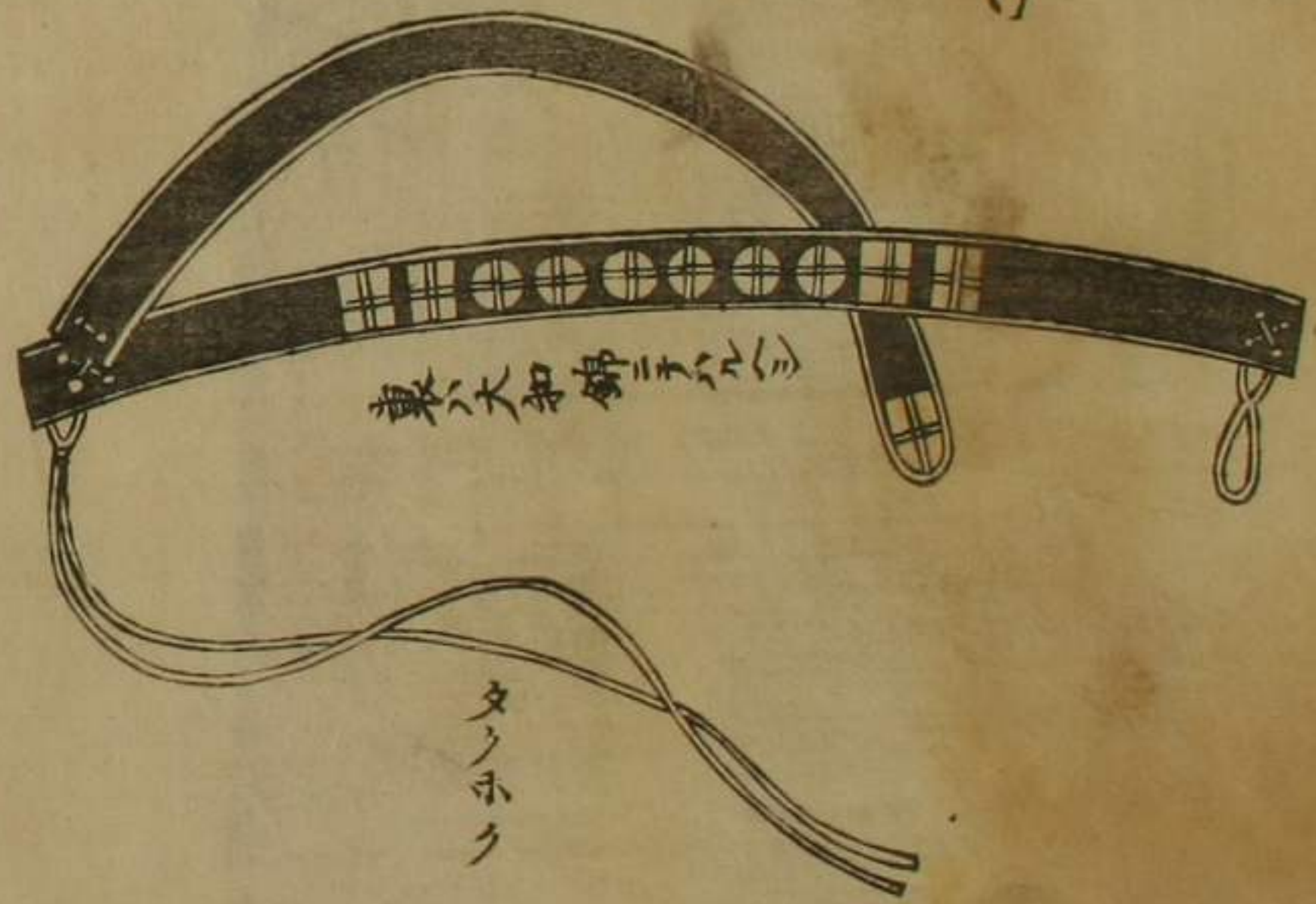


赤大口
紅生平詣或ハ精好^{モイゴク}を用^ニ裏^{モイ}同



石帯

無文巡方丸鞘石ハ
馬腦を用エ子細カ
之ヲ車渠犀角
脯石ホをもち
水牛を用ゝ
非法の事カ



平緒

紫紵を普通ニ緝地子細カ
又續平緒ニ垂平緒
つきふ糸を用ゝ
太刀を撒き付
カ

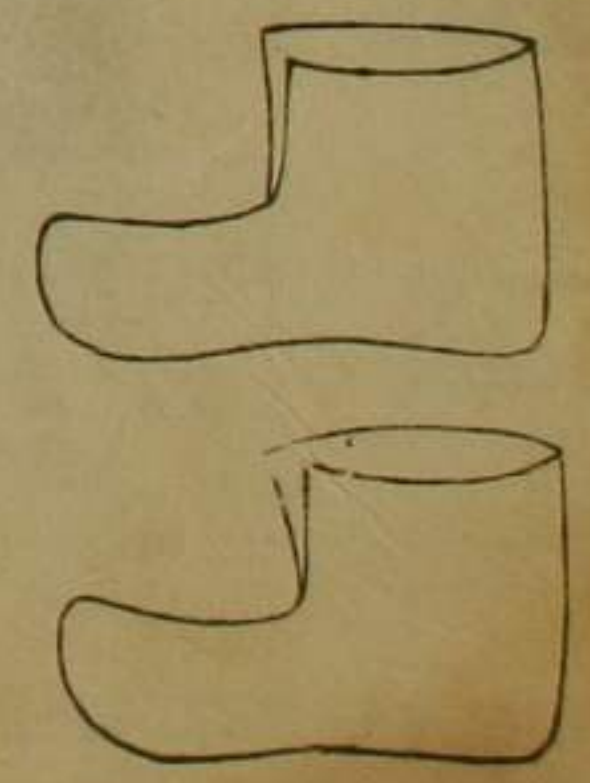
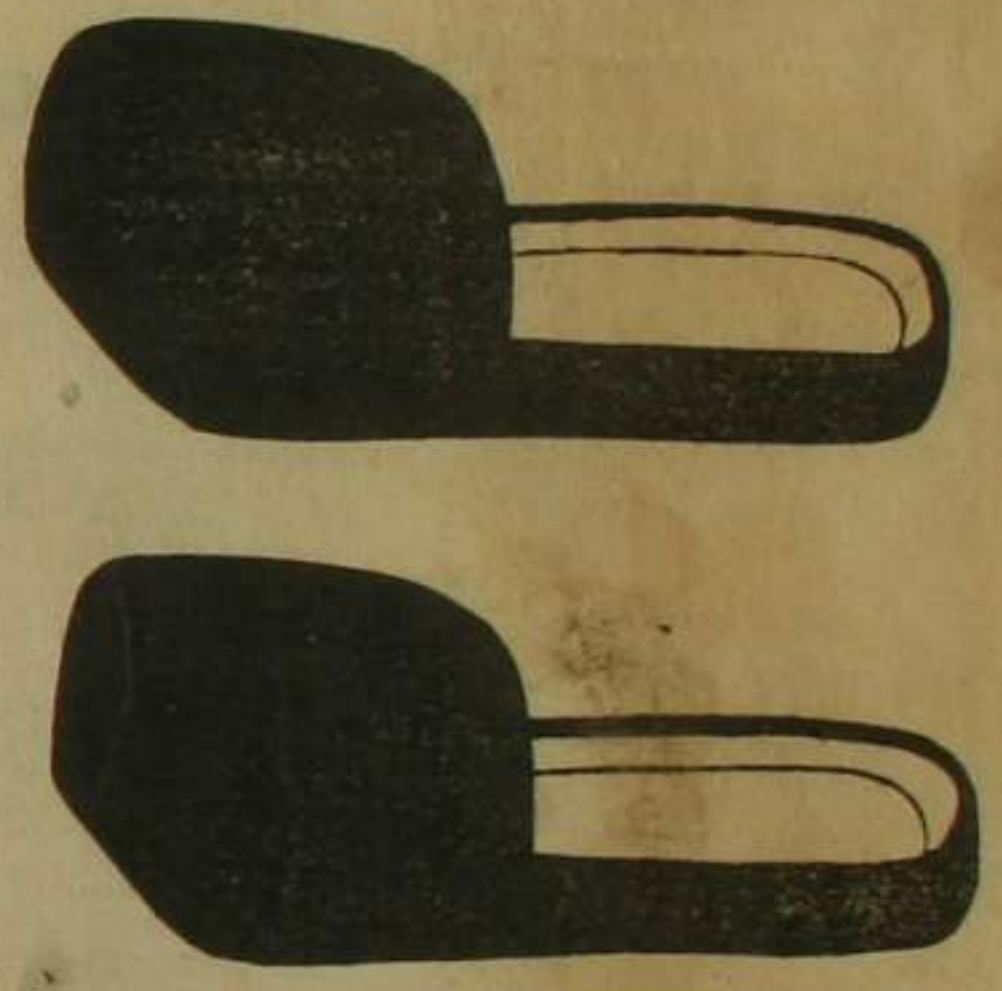


家の紋ニ又家紋をも子細カ
武家
方ニ家の
紋あるを

又...

浅沓

用意のしき
ろくろ糸綿より

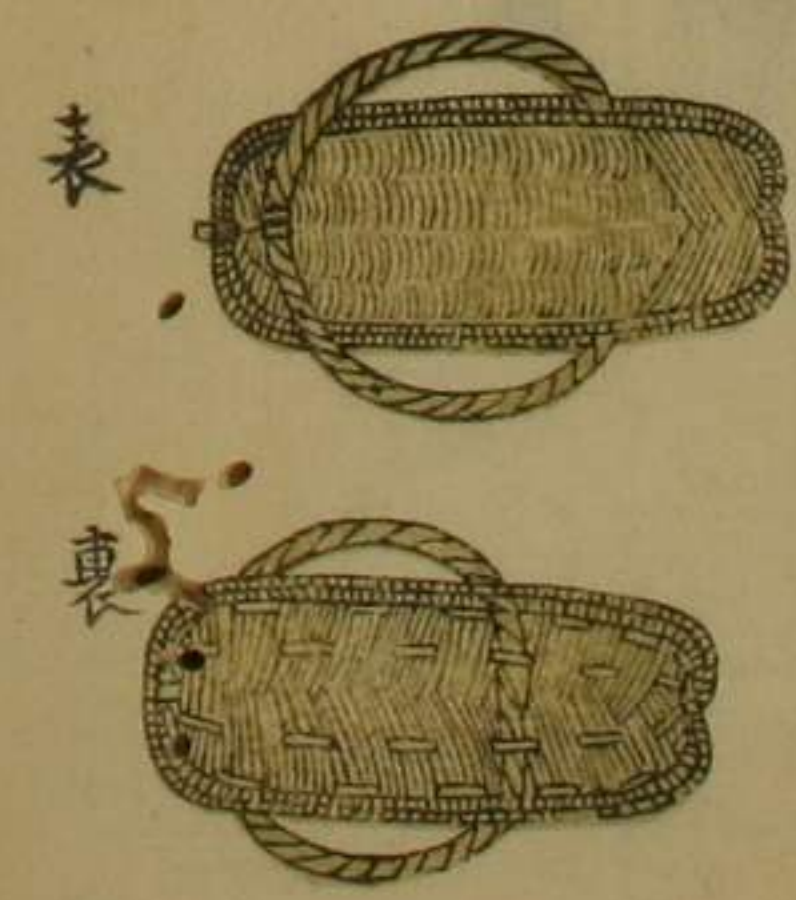
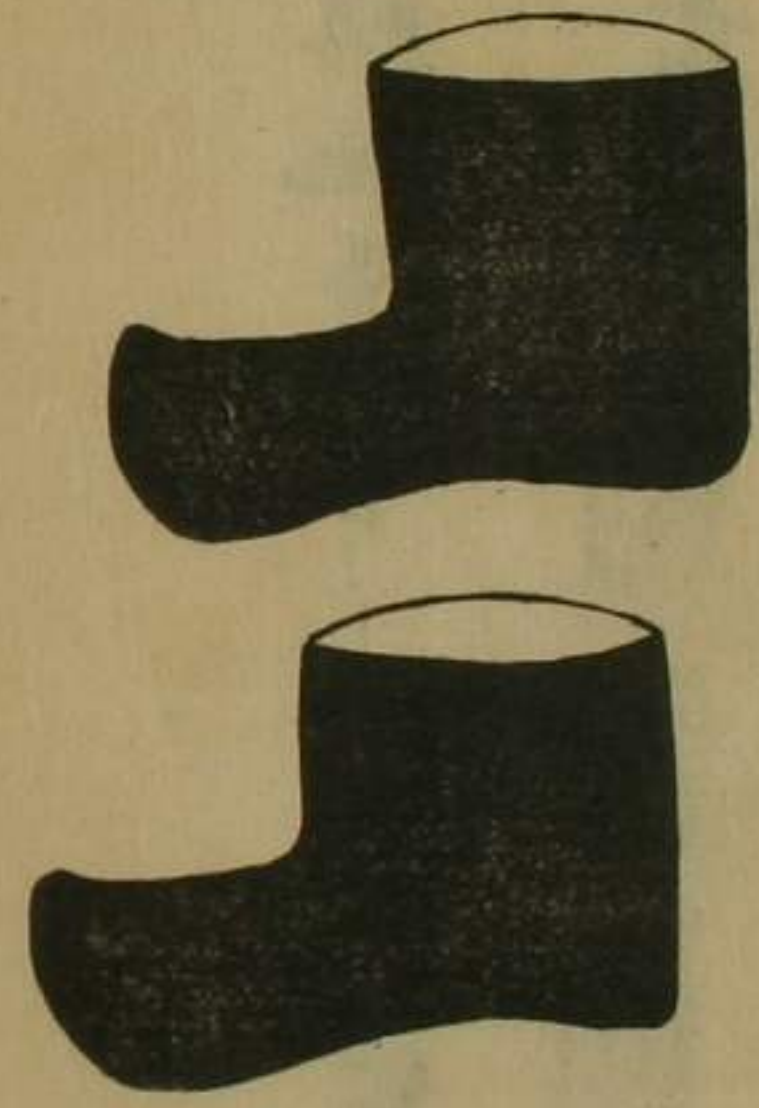


近代
足袋を用い

平沓又ハ夏ハ生平沓
冬平沓或綿より
又ハ夏久く移りぬき

深沓

甚雨雲より
用也略ハ塗
下駄を用い



緒太
或ハ金剛草履
又裏無
藁子作ハ藁草履

サシスキ
奴袴 指貫 氏



侍従以上經紫緯白の織物裏平沓
又ハ表平沓深沓裏日色平沓
老年ハ浅黄を用い申故実より

四品ハ浅黄平沓を用い
經浅黄緯白の織物を用い

- 一 衣冠の時ハ袍ハ奴袴ヲを着て末廣ヲをりしむル也
 - 一 劔ハ糸巻或ハ野ノ劔ヲを帯スル
 - 一 単衣冠トシテ袍ハ單衣冠トシテ是ヲ重衣冠トシ
 - 一 龍衣冠トシテ
 - 一 太刀の圖ハ武家装束皆具略記ト記スル
- おのり畧次

筑後久留米 松岡辰方門人

享和元年 辛酉 九月

松波茂興誌

一帖々武家方四位五位必用の服のニをスルル五位の
 中將四位の参袞ハ上ハ下ハ襲表袴奴袴有文を用ル也又
 公家方小半半臂袖衣等のハ不レ知ル也ハもハあリ也ハもハあリ也ハ
 前小装束圖式の名あれハ装束圖抄トあリ也

